# 穂　学

令和３年度
広州日本人学校　学校便り
［Ｎｏ10］
令和３年 10 月 14 日（木）
発行責任者 校長　加藤康徳


## 「全国学力学習状況調査の分析結果について」

今週から後期が始まりました。国慶節における人々の移動により懸念されていた新型コロナウイルス感染症の拡大は、その後広州市においても特に大きな問題にはなっていないので安心しております。後期児童生徒会の任命式も先日行われました。後期も気持ちを新たにして、子どもたちの豊かな学びを保障していきますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、令和 3 年度の全国学力学習状況調査の本校におけるおおよその傾向がまとまりましたのでお知らせをいたします。なお、本校の児童生徒が苦手とする問題の代表例もそれぞれ掲載いたしました。例年日本の子どもたちが得意とする領域、苦手とする領域はどの学校の子どもたちも同じ傾向にあります。学校では既にその傾向を教職員間で共通理解を行い日頃の授業改善に活かしておりますが、保護者の方におかれましても実際の問題にチャレンジすることで、そのおおよその傾向を実感して頂きたいと考えております。

なお、問題と解答については、国立教育政策研究所のホームページに掲載されておりますので右記の URL をご参照ください。　(https://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm)

### 令和３年度　全国学力・学習状況調査の概要

調査実施日：令和３年５月 27 日（木）※本校は７月３０日（金）に実施
調査対象：国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒
※海外の日本人学校は調査対象外ですが、希望により問題用紙を取り寄せ（無料)、実施することが可能となっています。
調査内容：〇教科に関する調査（国語、算数・数学）
〇生活習慣や学習環境等に関する調査

### 本校におけるこの調査の意義

この調査は日本国内では文科省による悉皆調査（全国一斉）ですが、海外の日本人学校においては時差や郵送方法などの問題で、希望した学校が文科省より問題用紙を取り寄せ（無料）それぞれの学校で実施し、その結果を分析します。よって、単純に文科省でまとめられた分析結果と比較することはできません。しかし、本校の児童生徒（小 6、中 3）の学力・学習状況のある程度の傾向は理解することができます。なお、この結果については今後の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

**＜本校における国語、算数・数学のおおよその傾向＞**※資料は本校の児童生徒が苦手とする問題

＜小学校６年　国語＞

「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使用する」ことは得意である。しかし、「反対の意見を特に掘り下げて書く」ということが苦手である。また、「例文から反対する意見を書く」ことができても、「その理由を書くこと」ができていない児童もいた。今後は授業の中で「資料を基に詳しく書く」「例文をもとに自分なりの発想を膨らませて自分の意見を書く」という学習を多く取り入れたい。

**「問題：２－３、　２－４」**

＜小学校６年　算数＞

「条件に合う時制を求めることができる」「棒グラフから数量を読み取ることができる」「集団の特徴を捉えるためにどのようなデータを集めるべきか判断することができる」という問題は得意である。しかし、「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める」「商が１より小さくなる等分所除（整数）÷（整数）の場面で文章から数量関係を式に表し、計算をする」ということを苦手とする傾向がある。今後は授業の中で「式と答え（数字）を求めることだけでなく、必要な情報を言葉で記述できる学習」や「文章題からすぐに式と答えを記述するのではなく、問題の意味を正確に把握し、理解する学習」を大切にしたい。

**「問題：２－３」**

**「問題：４－２」**

＜中学３年　国語＞

「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」「文脈に即して漢字を正しく書く」という問題は得意である。また、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「事象や行為などを表す多様な語句を理解し表現する」という能力も高い。しかし、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方や段落相互の関係に注意して書く」「相手や場に応じて敬語を適切に使う」ということを苦手とする傾向がある。今後は授業、あるいは日常生活の中で「文章全体を見て、段落相互の関係を読み取る力」や「謙譲語と尊敬語の表現の違いをしっかりと理解し、表現することができる力」を身に付けさせたい。

「問題：２－１」

＜中学３年　数学＞

「四角の角の４つの数の和が４の倍数になるかどうかを確かめる式を書く」「与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる」という問題は得意である。しかし、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる」という問題を苦手とする傾向がある。今後は授業の中で「グラフを正確に読み取る能力」や「問題の意味を深く考える能力」を育てたい。

「問題：８－３」

**＜全国調査結果の状況＞**

令和２年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で悉皆調査ができなかった。そこで令和元年度の調査結果と比較すると小学校は国語・算数ともに平均正答率が上昇しているのに対し、中学校は国語・数学ともに平均正答率が下降していると言える。特に中学校の国語は低下が見られたようだ。